

健康

軽度外傷性脳損傷

(MTBI)とは



石橋徹院長

軽度外傷性脳損傷(MTBI)は、世界保健機関(WHO)が「静かなる流行病」と警告したことで、大きく注目されています。日本ではまだ聞き慣れないこの疾患に詳しい、湖南病院(茨城県下妻市)の石橋徹院長に聞きました。

記憶力低下、手足のまひなどの症状

外傷性脳損傷は、脳内の「軸索」という神経線維が傷つくことよって起こると考えられます。むち打ちなどで頭部が突然大きく揺れると、軸索が傷つき、発症するのです。米国で14年前に外傷性脳損傷法が制定されるなど、近年、欧米を中心としてクローズアップされてきました。日本では、むち打ち損傷は頸椎の病気だと考えられてきました。しかし、むち打ちで頸椎が異常な動きをするなど、脳に負担がかかり、軽度外傷性脳損傷(MTBI)を起こすことがあります。けがをした時の意識障害の程度により、外傷性脳損傷は、軽度、中等度、重度に分類されます。2007年のWHO報告によれば、年間1000万人の外

傷性脳損傷患者が発生していると推測され、このうち、9割がMTBIといわれています。日本にはまだ診断基準がないので、国内の患者数を正確に知ることはできませんが、WHOの報告から累計患者数を推計すると、実際には、過去20年間だけ公明堂のように、対策を政策として掲げる政党も出てきました。今後の研究や対策の充実に期待されます。

交通事故、転倒等が原因に
MTBIの主な原因には、次のようなものがあります。●交通事故

【主な自覚症状】

【主な原因】



味が分からなくなる
耳が聞こえにくくなる



記憶力・理解力等の低下



転倒・転落



交通事故



排尿・排便に支障をきたす



手足の感覚が鈍くなる



乳幼児の揺さぶり



スポーツ外傷

- 高所からの転落
 - 転倒
 - スポーツ外傷
 - 暴力
 - 乳幼児の揺さぶり
- 注意が必要なのは、「軽度」といっても、あくまで受傷時の意識障害の程度が軽度に分類されたという意味で、必ずしも、その後の症状が軽いわけではない点です。多くは3カ月から1年で回復しますが、1割近くが、1年後も社会復帰できないといえます。時間の経過とともに症状が重くなり、深刻な状態になることもあるのです。

脳がダメージを受けると、さまざまな症状が表れます。主な自覚症状は次の通りです。●高次脳機能障害

(記憶力・理解力・注意力等の低下、発作性意識障害(てんかん等))

●視野が狭くなる、味やにおいが分からなくなる、耳が聞こえにくくなる

●手足の動きや感覚が鈍くなる(まひ)

けがの後
すぐ表れないことも

これらの症状は、受傷後すぐに表れないことがあり、注意深く経過を観察する必要があります。これらの症状は、受けたけがの程度や、受傷部位によって異なります。画像で病変が確認できない場合には、脳神経外科以外に、眼科、耳鼻科、泌尿器科、リハビリテーション科、精神科など、幅広い診療科の医師がMTBIの確定診断に参加します。これには大きな努力がかかりますので、今後は「神経外傷医」など、専門医を育成する体制づくりが望まれます。

多い課題 治療・診断の難しさ

MTBIの対応には、まだ多くの課題があります。最大の課題は、完治させるための治療法が見つからないことです。しかし、早めに対処をすることで、症状を最小限に抑えることができます。高次脳機能障害であればリハビリ訓練、身体障害に対しては理学療法、装具療法などが中心となります。また、特に初めの段階では、医師の指導の下、安静を守り、脳に負担をかけないことが大事です。また同じけがを繰り返さないようにすることです。診断も、とても難しいのが特徴です。症状がすぐに表れず、WHOの診断基準も普及していません。現時点では、労災や自賠責の補償対象にならないケースが多いため、働けない場合には経済的な支援も必要です。またこの病気を知らずに、または気が付かずに悩んでいる人は多くいます。症状や、原因となるけがなどに心当たりがある場合は、MTBIを疑い、受診することをお勧めします。